

「7月28日未明の月没帯食」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

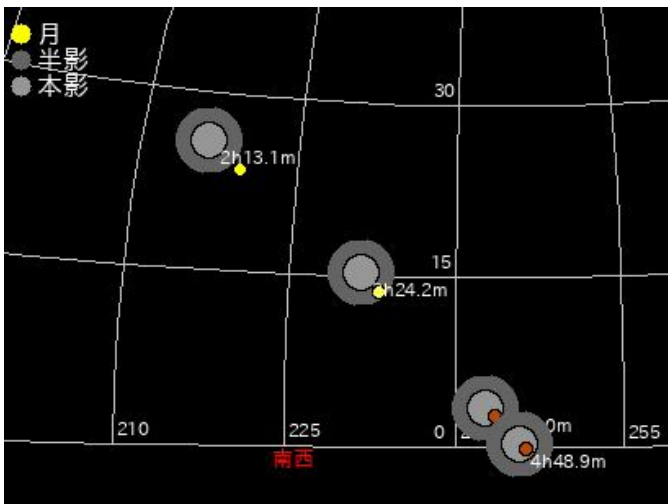
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

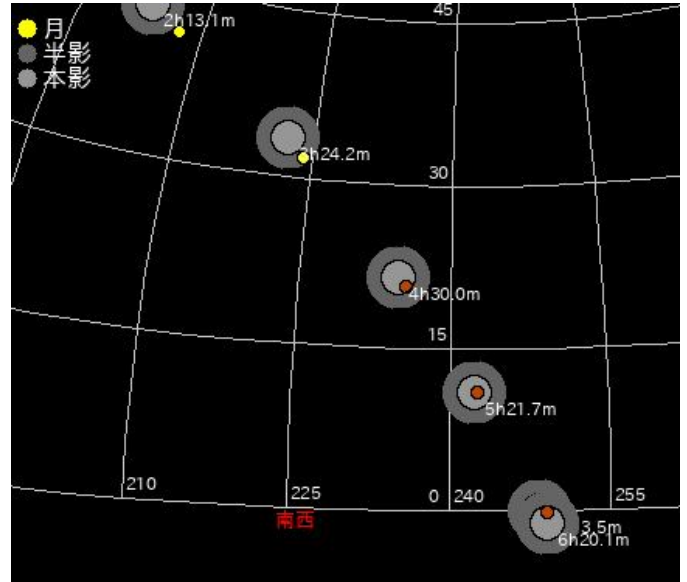


写真は今年の1月31日の皆既月食の連続写真である。この日は観望条件も天気も良く、東京都内でも月食の開始から終了までをすべて見る事ができた。

7月28日の未明に、今年2回目の皆既月食が見られる。しかし、今回はあまり条件が良くない。東京の緯度経度で計算すると、月食(部分食)が始まるが午前3時24分、皆既開始が午前4時30分、しかしその18分後に月は西の地平線に沈んでしまう。



上図は、今回の皆既月食の東京での見え方である。皆既になって間もなく、月は沈んでしまうのがわかる。月食の状態で月が沈む現象を「月没帯食」という。実は意外にも珍しい現象である。午前3時24分からの部分月食は、西の空に見られ、皆既が近づくと、月がだんだん赤くなる様子もわかるだろう。



今回の月食は、西の土地ほど観望条件が良く、吸収や沖縄では、皆既になったあとも地平線に月が残る。上図は、日本の最西端にある与那国島での様子だ。午前6時20分に月が沈むまで、皆既月食が観察できる。6時20分といえば、東京ではすっかり朝になっているが、ずっと西の与那国では日の出が6時14分なので、夜明けの空に浮かぶ皆既月食という、奇妙な光景が見られるはずだ。もっと西のインドやアフリカでは、月食の全貌を見ることができる。



東京では西の地平線に障害物が多いので、月没時刻(4時48分)よりも早く月が見えなくなってしまうだろう。上図は、池袋に沈む皆既中の満月の想像図である。赤銅色の月の右下が、少し明るく見えるはずである。台風の接近も心配で、観望は難しいかも知れない。しかし、東京で月没帯食が見られるのは珍しく、しかも月の左下に大接近中の火星も輝いています。少し早起きをして、是非西の空を眺めてほしい。